

谷川 檜又谷二ノ沢B沢～一ノ沢(下降)

大田原

【日時】 2013年10月12日(土)

【メンバー】 L大田原、手嶋、栗原

3連休初日を持って余したお二人が『平日クラブ』改め『日帰りクラブ』の私にお付き合いいただけることになった。翌日別の山行へ向かうお二人からの条件、「関越方面」「軽め」「近い」に適しているのはどこかと思案し、檜又谷三大スラブのひとつ、B沢のスラブを訪れてみることにした。

なぜか新潟だけ天気が悪い。まあ、多少増水しても支障ない沢なので気にしないことにする。手嶋さん御用達の前泊地を出発し檜又谷へ。林道を少々の歩きで堰堤巡視路を通り入渓する。相変わらずつまらないゴーロをしばらくで一ノ沢が出合う。上部に滝が見えるが、下降大丈夫かな。二ノ沢出合も分かりやすい。迷うことなく歩を進める。ヌメる小滝の先には7m滝。右壁が登れそうに見えたのでロープを引いて取りつすが、意外と悪い。上部であと一步登りきれず撤退。こういうところが私の課題だなあ。左右の側壁を見回し、登りやすく見えた右の小ルンゼから高巻きに入る。お二人からは「左の方がいいよ!」と言われたが、私には左の草付の方が悪く見えたのである。仕方なさげにお二人もルンゼから来たようだが、何やら騒がしい。滝上で待っていると、何とルンゼで落石があり手嶋さんが負傷したとのこと…。応急処置後に確認するも、引き返すつもりはないそうなのでそのまま進む。2段10mの滝は左から容易、すぐにB沢である。あれっ、A沢ってあったっけ…?CS滝があるのでこれがB沢で間違いないよな…。まあ、い



いでしょ、と入るが、これがヌメるヌメる。ヌメヌメ地獄の小滝を越えると目の前にスラブが展開している。おおっ、これがB沢のスラブか。大スラブの半分くらいの規模だが、なかなかよい。乾いた右壁はフリクション抜群、栗原さんは駆け上がっていく。晴れてたらさぞ気持ちいいだろうが、曇っている方が暑くなくていい。グイグイ登るとあっという間に源頭、階段状に高度を上げると忽然と水は消える。コンコンと湧く水で喉を潤し、左上方を目指し藪漕ぎ開始。藪はさほど濃くない。30分程で稜上に出て一ノ沢へ下降。下り立った一ノ沢は手嶋さん曰く「死んだ沢」。ものすごくガレガ



レで荒れている。ガレを嫌い左岸を巻いたりしたが、結局沢床を下りる。中程まで来るとすっきりしてきて滝が現れる。登りならフリクションをきかせて楽しげだが、下降なので巻き巻きで下る。雨も降り出し、檜又谷へ下り立つ頃には割と本降りになってきた。おかわりの一本は無しにしてゴーフを帰った。

日帰りとしては軽いスラブ登りが味わえるので悪くない沢である。さて次は小スラブかな。

【グレード】2級

【行程】檜又谷入渓点(8:10)～二ノ沢出合(8:50)～B沢出合(9:55)～一ノ沢下降点(11:40)～一ノ沢出合(13:05)～入渓点(13:40)

【地図】茂倉岳

